

SNW対話イン九大 2013 事後アンケート結果 (平成 25 年 11 月 7 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 …………… 13名

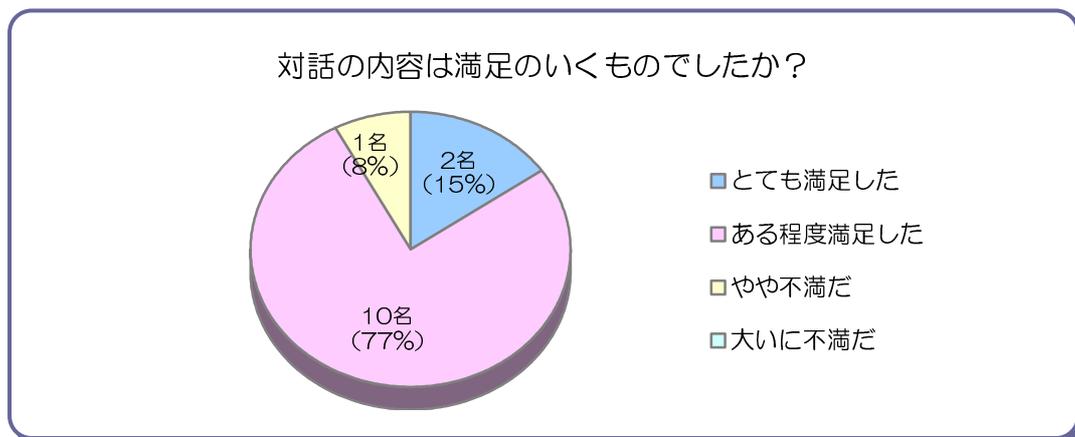
2. 基調講演について

(1) 対話の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した……………	2名 (15%)
ある程度満足した……………	10名 (77%)
やや不満だ……………	1名 (8%)
大いに不満だ……………	0名 (0%)

「とても満足した」と「ある程度満足した」を加えると、92%になる。

「やや不満だ」の回答は、“定量的な議論があまり深められなかった（費用対策など）”であった。また、「大いに不満だ」の回答はなかった。



<理由>

- 一部聞けないこともあったが、いろいろと聞いて満足できた。
 - ・ シニアの方の貴重な意見を聞けたから。
 - ・ 社会人の方と話すことが出来て良かった。
 - ・ 少人数で行ったので議論が活発だった。
 - ・ いろいろな知識が得られたから。
 - ・ 聞いた内容に対して十分な回答をしていただいたので。
 - ・ 有意義な話を聞くことが出来たので。
 - ・ 自分の知らない専門家の現場の話を聞けたから。
 - ・ 専門の方々に直接テーマについての話を伺うことが出来たから。
 - ・ 対話会の進め方の工夫や、参加学生の主体性によって、多様な視点からテーマにアプローチできたと思います。しかし、時間が迫っていたことや、(自省として) 発言・主張が端的でなかったこともあり、一つの話題について全員がまんべんなく話す、というより一つの話題について

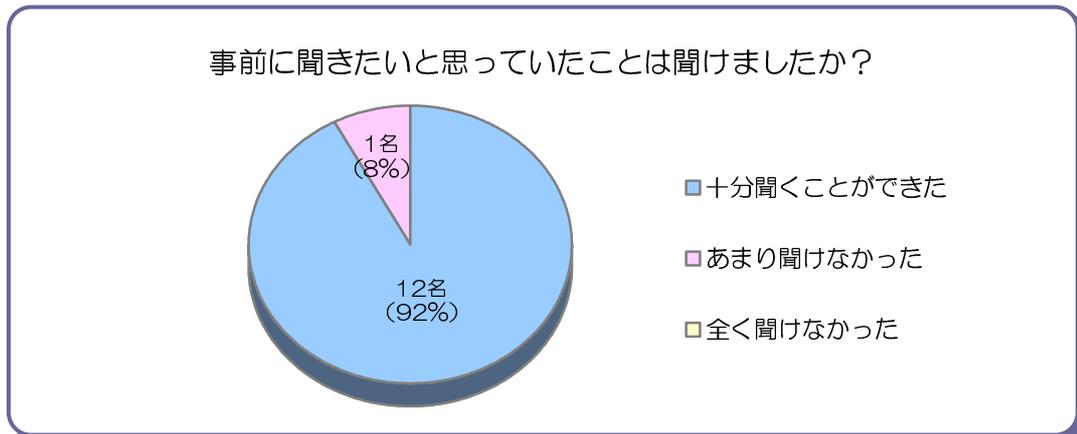
シニア×学生①、別の話題でシニア×学生②、というように、学生間の対話が不十分な展開を見せていたように思います。

- ・ 定量的な議論があまり深められなかった（費用対策など）。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた……………	12名(92%)
あまり聞けなかった……………	1名(8%)
全く聞けなかった……………	0名(0%)

1名を除いて、「十分聞くことができた」と答えている。



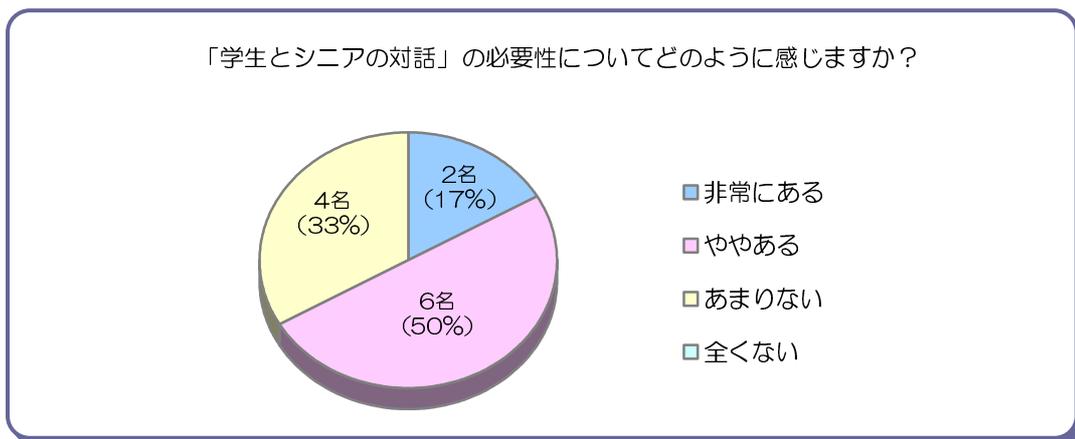
(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・ 原子力の必要性を再確認した。
- ・ 自分以外の学生が持つ、自分が考えなかった視点からの意見・考え。
- ・ 廃炉についての知識が得られた。
- ・ 原発の現状について知りたかったことがわかった。
- ・ 今後の原子力、エネルギー政策について考える機会があったこと。
- ・ 今後、原子力を担っていく者としての自覚。
- ・ 専門家の原発復活に向けた具体的な考えを聞いたこと。
- ・ 日本における資源、エネルギー問題について再認識を行うとともに、私たち若者が行うべきことを知った。
- ・ 「反対派意見」＝「ヒステリックな感情論」という扱いが少なからずあること。
- ・ ①「シニア学生対話」の進め方に関する留意点、工夫のしどころに関する認識、②自分の意見が、対話形式を通じてシニア世代にどのように受け止められるか、という経験（漠然と賛同を得られないだろうと感じていた意見についても、納得されたり、その上で議論を進められた点が印象的でした。企業の海外進出時の戦略について等）。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	2名 (17%)
ややある	6名 (50%)
あまりない	4名 (33%)
全くない	0名 (0%)

「非常にある」と「ややある」を加えると6割強になるが、「あまりない」の回答者も3割を超える。「全くない」については、回答者なし。



<理由>

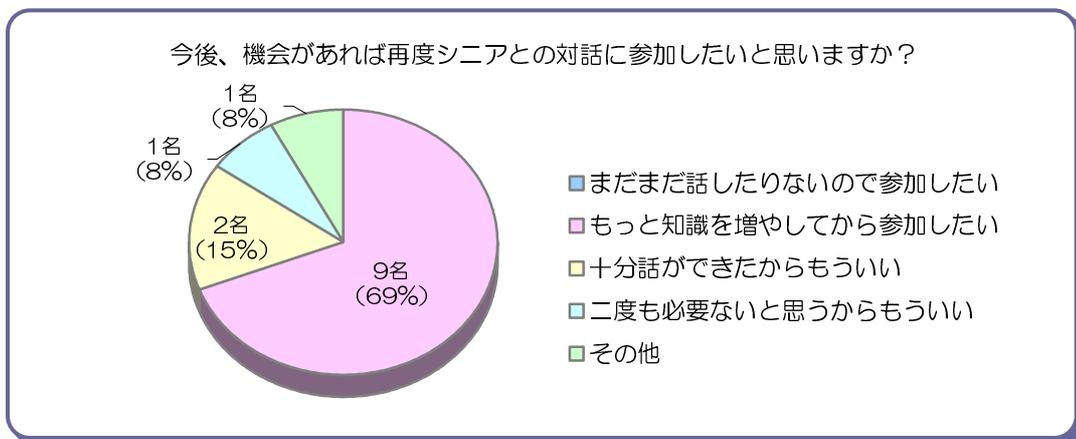
- ・ “原子力に反対”の人の意見や考えについても聞いてみたい。
 - ・ 原子力業界に対する不安の払拭。
 - ・ 普段、学内にしかない大学生が世代を超えた専門家と意見を交わすことができる場は限られており、その経験は非常に有益であると考えから。
 - ・ 実際に現場にいた有識者の方々と直接話し合う機会をもつことはとても重要だと思うから。
 - ・ シニアとの交流の経験や、生身のお話を伺う機会が有意義だと感じました。一方、内容的な面で意義をもたせるためには、学生側の準備にもっと注力する必要があると思います。結局、建設的な批判的思考をする姿勢だけあっても、準備をしなければなかなか学生が意見を展開することは難しいように思われました。
- ・ 原発に反対している人と議論すべきだと感じた。
 - ・ 学生とシニアとの対話が必要かどうかわからない。こうした経験が生きてくるかどうかは、もっと後にならなければ判断できないものだと思う。
 - ・ 聞かなければ分からないことがたくさん出てくるわけでもないので2年に1回ほどで十分。
 - ・ 参加者は原子力に関心のある（好意的な）人ばかりで、自然にどこかで聞いたことのある議論や結論になりやすい。幅広い意見がなければ大きな必要性を感じない。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい……………	0名 (0%)
もっと知識を増やしてから参加したい……………	9名 (69%)
十分話ができたらもういい……………	2名 (15%)
二度も必要ないと思うからもういい……………	1名 (8%)
その他……………	1名 (8%)

7割近くが「もっと知識を増やしてから参加したい」と回答している。

その他の1名は「短時間で濃密に議論できるものと、上澄みをすくうような議論しかできないものがあると思うので、テーマによる。」と回答している。

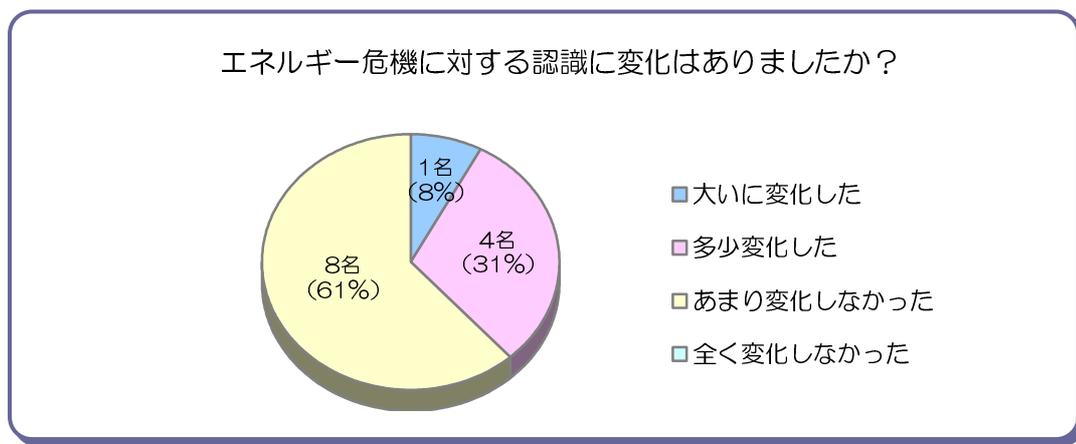


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	1名 (8%)
多少变化した	4名 (31%)
あまり变化しなかった	8名 (61%)
全く变化しなかった	0名 (0%)

4割近くが「大いに变化した」又は「多少变化した」と回答している。

「あまり变化しなかった」8名のほとんどは“もともとエネルギー危機に関して理解している。”、また、「全く变化しなかった」との回答はなかった。



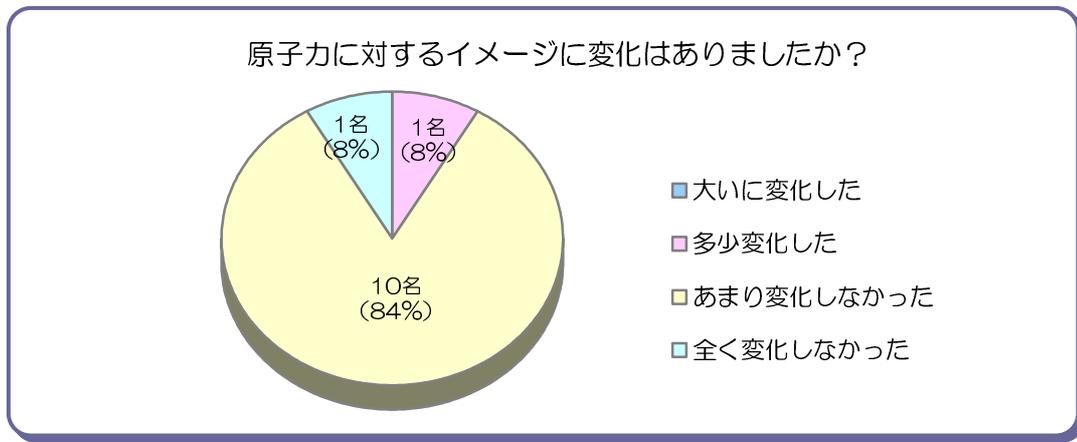
<理由>

- ・ 現状の深刻さに対する認識が甘かった。
- ・ 議論前から変わることなく、危機に瀕していると認識している。
- ・ 直接、話を聞くことで現状を再認識したため。
- ・ すでに知っていることが多かったから。
- ・ 今まで、原発は国の維持のために必要と思っていたが、その必要性が我々個人のレベルでの話（国の緩やかな発展は我々個人の権利であり責任である）でもあると考えさせられたから。
- ・ 今までより一層、現在のエネルギー危機についての重大さを実感できた。
- ・ エネルギー危機に対する認識を大きく変えるような議論はなかったから。
- ・ あまりエネルギー「危機」に焦点をしばった話をしなかったから。

(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した……………0名（0%）
多少变化した……………1名（8%）
あまり变化しなかった……………10名（84%）
全く变化しなかった……………1名（8%）

10名が「あまり变化しなかった」と回答しているが、理由はほとんどが“原子力が必要であることは知っていた”である。



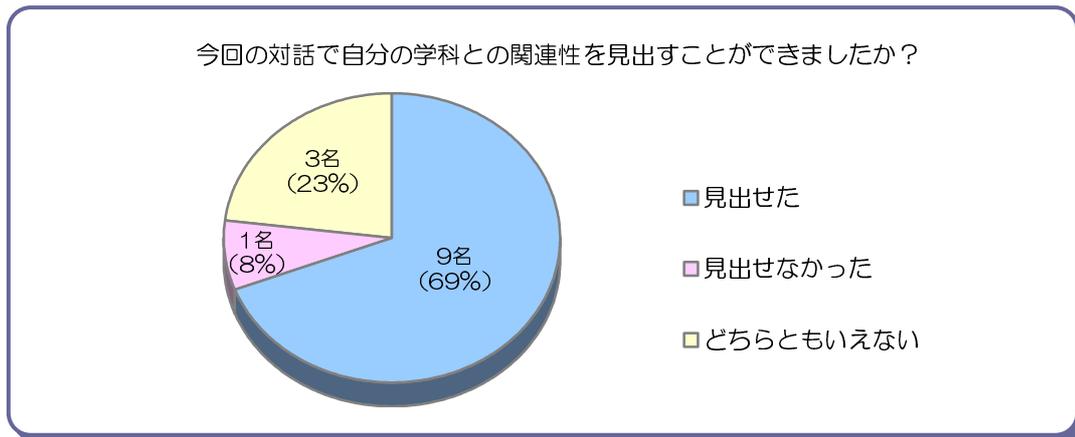
<理由>

- ・ 自分の中で原子力維持は不可欠であると考えているから。
 - ・ 原発に対するイメージはシニアの方々とはある程度共通していたから。
 - ・ しっかりと管理すれば、安全であることに揺るぎないから。
 - ・ 「原子力に対するイメージ」＝原子力工学、関連技術の利用に対する個人的な賛否であるとすると、個人的な賛否は持っていないので変化はありません。また、仮に日本において原子力発電所などを新設するべきか、等の問題に関する意見であれば、特に意見を変える内容はありませんでした。他方で、生身の原子力技術史を語っていただくことで、黎明期において原子力がどのような技術として研究され、発展させられてきたか、というイメージはより具体的に湧きました。
- ・ 今後の原子力発電の印象は福島の後始末までを含めるべきだと強く感じたから。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた……………9名(69%)
見出せなかった……………1名(8%)
どちらともいえない……………3名(23%)

約7割が「見出せた」と回答しており、見出せなかった1名の回答理由は“原子力と自分の学科と
いう意味ならば、今回の対話によって何か新しく感じたものは特にない”であった。



<理由>

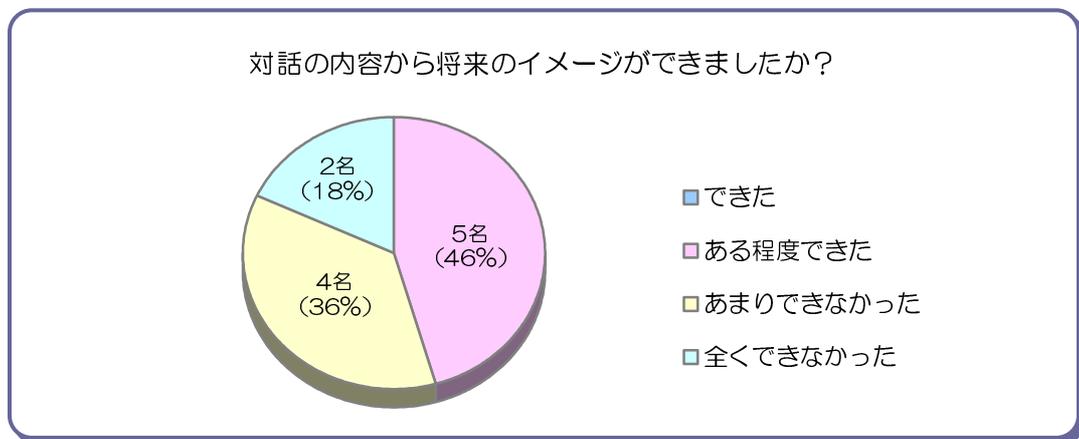
- ・ 今回の対話によって何か新しく感じたものは特にない。
- ・ 自分のグループは、廃棄物の処理の話があまりなかったから。
- ・ 数少ないこの分野を勉強する学生であることを意識できたから。
- ・ 廃炉に使うロボットの半導体のソフトウェアにはPHITS等の計算コードでシミュレーションされ、その計算コードは我々の研究室に深く関係しているから。
- ・ 自分自身の就職にも直接関連してくることだから。
- ・ 対話テーマの内容は所属する専攻、研究室に大いに関連するものであった。
- ・ もともと、環境エネルギーコースという所属であるため、今回の対話を通じて関連性がみえたといったことはありませんでした。

(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた	0名 (0%)
ある程度できた	5名 (46%)
あまりできなかった	4名 (36%)
全くできなかった	2名 (18%)

「できた」の回答はなし。約半数が「ある程度できた」と回答しているが、「あまりできなかった」との回答も36%と多かった。

また、「全くできなかった」の回答理由は、“知識が豊富なシニアの中でも様々な意見がある中で、そういった意見に乏しい自分にはどうなってしまうのだろうとしか思えなかった”、“将来のイメージを得るには対話時間が短いから”であった。



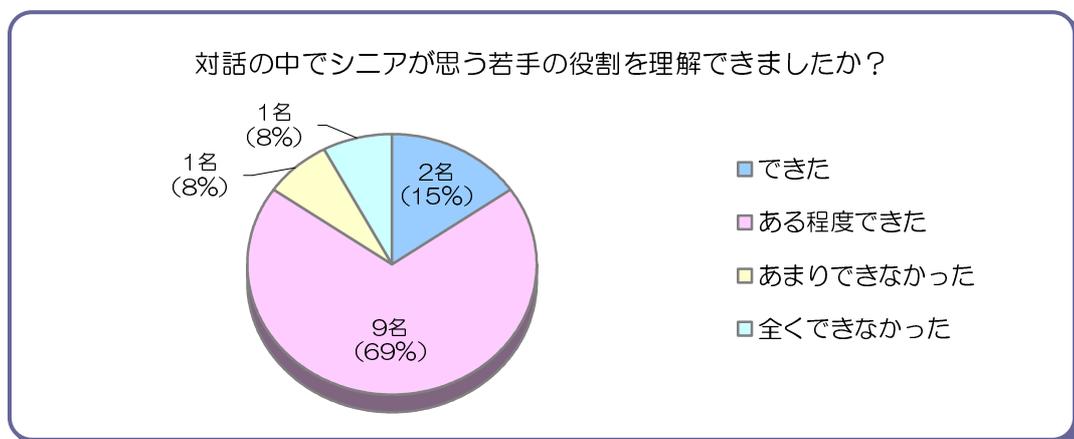
<理由>

- ・ 原子力関連の仕事につくため。
- ・ 知識が経験豊富なシニアの中でも様々な意見がある中で、そういった意見に乏しい自分にはどうなってしまうのだろうとしか思えなかった。
- ・ 就活を始めていないので、あまり意識していなかった。
- ・ 具体的な話はほとんどできなかったから。
- ・ 将来のイメージを得るには対話時間が短いから。
- ・ 原発復活に向けた具体的な討論ができたと感じたから。
- ・ 現在のエネルギー問題や、原子力関係の会社の情勢についても話を聞くことができたから。
- ・ 今後の方針やロードマップは示され、ある程度はイメージできるがそれを忠実に実行できるかどうかはわからない。
- ・ 将来のあるべきエネルギーシステムの話よりも、既存のシステムを今後どうするか、といった話が中心でした。

(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた…………… 2名 (15%)
ある程度できた…………… 9名 (69%)
あまりできなかった…………… 1名 (8%)
全くできなかった…………… 1名 (8%)

約8割が「できた」又は「ある程度できた」と回答している。また、「あまりできなかった」(1名)の回答理由は“まだまだ話し足りない部分もあったため”、「全くできなかった」(1名)の回答理由は“若手の役割というのが、対話の中での役割か、これからの原子力分野での役割か、意味が分からなかった”であった。



<理由>

- ・ まだまだ話し足りない部分もあったため。
- ・ 会話の随所に「若い人たちに～してもらいたい」等の言葉があったから。
- ・ そのような内容の話ができたため。
- ・ 若手の役割というのが、対話の中での役割か、これからの原子力分野での役割か、意味が分からなかった。
- ・ ハッキリと何を求めるかおっしゃられたので。
- ・ 今後原子力を担っていく大切な人材であるから。
- ・ これからの日本を支える人材になってほしいという思い、また夢をもって事に当たってほしいという思いが感じられたから。
- ・ これから先、若者一人一人が正しい知識を理解し、それをまた回りの人と共有していかなければならないと思うから。
- ・ 「原子力の未来に希望を示し、シニアを安心させてくれ」という内容のコメントを頂いたから。
- ・ 放射性廃棄物の処分に関する研究をしている学生が集まっていたことで、この問題の解決に必要な技術的・社会工学的貢献について、シニアの方からお話がありました。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・ 前半は、自分が思っている以上に原子力が必要だと考えていることに驚いた。後半は、以前と変わった点はない。
 - ・ 他の人々に原子力について教えるために、まず自分が原子力に対する深い知識、正しい知識を勉強しなければならないと思った。
 - ・ 知識不足があるので、考え方が変化するよりも、もっと知らねばならないことがあると痛感した。
 - ・ シニアの人は、自分たちに比べて全体を見た（社会等との関わり方）議論をしていた。
 - ・ シニアとの考えの違いはなかった、また、自分の考えに変化はなかった。
 - ・ 今、若い世代への技術の継承がうまくいっていないという話を伺ったときに、シニアの方は、引退した方でもどんどんベテランを利用するとよい。そのための協力は惜しまないとおっしゃった。これは引退即隠居だと思っていた私のシニア観とよい方に大きくずれていた。非常に頼りになるお言葉だと思ったと同時にシニアの方々の期待に応えるような人材になりたいと感じた。
 - ・ 一人ひとりの情報発信をもっと積極的に行わなければならないと思った。
 - ・ これからの原子力は多分野の橋渡しとなる組織が重要になってくると考える。過去の職歴や出自に左右されない立場から、多方面の意見を引き出してまとめるために頭を悩ますことが若手の仕事であると考える。
 - ・ 「国際政治に関する教養」や「語学力」が必要であるという話は意外でした。また、英語のみならず、ロシア語、フランス語が求められる場面もある（i.e.ベトナムへの原子力発電所輸出）というお話も想像していませんでした。電力会社にとって、途上国進出における国際競争、という経営局面では、（従来の？）日本の基幹電源として供給責任を果たす、という局面よりもマーケティング的な要素が強いものと思います。今回の対話会で、今後、日本の原子力技術は海外の需要に支えられる部分も大きくなる、という話は度々ありました。これらの点を踏まれば、経済学部での原子力利用に関する議論や、工学部における国際経済、国際政治の知識も重要であることが納得できます。この認識は私の考えにおける変化でした。
- ・ 原子力産業・研究を発展させてきた（ゼロからプラスへ進めてきた）世代と、現状で様々な政治的規制、社会的マイナスイメージを持って、これから原子力分野を動かしていく世代とのギャップを感じた。「夢を持って頑張ってもらいたい」という一言を受け取る気になれなかった。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・ 思っていたよりも時間が足りなく、学生が聞きたかった事とシニアが伝えたかったことに一部食い違いがあった。
- ・ あまり聞けないような意見が聞けたのでよかった。
- ・ 学生が仕切るという初の試みではあったが、上手く進行できていたと思う。もう少しいろんな人と話す時間をとってよかったと思う。
- ・ やはり、他の学生は自分の研究活動が忙しいと思われるので、修士向けではなく学部生を対象に行った方がいいと思います。
- ・ 非常にいい経験をさせていただきました。来年もこのような対話が開かれるなら都合がつく限り参加したいと思いました。
- ・ 本企画は、自分の意見・立ち位置を見つめ直すとても良い機会となりました。シニアの皆様、学生幹事の方、ありがとうございました。
- ・ もっと対話の時間が欲しかったです。基調講演の内容は、対話会の中で引用されて初めて理解が深まったことも多かったため、今回の内容に関しては（実際に金氏さんも飛ばし飛ばしで話されていましたが）特に講演者の方が重要と感じる点を紹介するような形で、少し時間を短縮しても良いのではないのでしょうか。シニアの方のお話は、学生の発表後の講評として聞く方が有意義であるように感じました。

